

No. 03

和歌山県那智勝浦

植栽木を  
シカの食害から守れ！



和歌山県新宮市

山一本店グループ  
株式会社  
山一木材 様

素材生産 / 木材販売 / 製材 / 山林経営  
/ 林産物販売



捕獲成功でチャットが炎上!?  
企業が取り組むシカとの戦い。

伐採まで50~60年かかる植栽木の  
新芽を、何度も食べられた苦い経験。



山一木材は、立木の伐採・搬出を行い、素材として木材を販売する材木業者。獣害対策は瀬古社長と山林管理部の辻さんにお話を伺った。

長年林業に携わってきた瀬古社長によると、シカの被害が目立ち始めたのは平成8年ぐらいから。それまでは自社の所有林の周りをネットで囲み、なんとか被害を防いでいたが、その頃からネットを破られ、苗木の食害や立木の皮剥ぎが始めた。

相当な被害が出ていても、林業者間の意識にはばらつきがある。これはもう、自分たちでやるしかない。

常時6箇所ほど伐採作業を行っているので、その中から罠を設置する場所を決め、捕獲に取り組み始めた。和歌山県の補助金制度を利用して設置し始めた檻だったが、最初は苦勞の連続だったという。県の林業試験場や、地元  
の猟師さんに餌の置き方などのアドバイスをいただいたおかげで、シカが現れてから檻に入るまでは早かった。シカが檻の中を餌場と学習し、十分に警戒心をなくすまでじっと待つこと1ヶ月、ようやく捕獲に至った。



スマホで見ながら捕獲できる「ホカクン」で、捕獲効率の良さを実感。

通常の業務を行いながらシカの捕獲も行うのは大変だ。しかも山一木材の社有林は1,500ha。各現場は県内に点在しており、見回りだけでも相当時間がかかる。「クラウドまるみえホカクン」はスマホのアプリで檻の状況をリアルタイムに把握できるため、非常に効率的だという。捕獲するかどうか、スタッフ間でチャットをしながら決められる。最初の捕獲の時は、シカが檻に入ってから、夜にもかかわらず社員同士でチャット※を行い、捕獲を実行。初めての捕獲成功に感極まり大炎上したそうだ。



赤いポンは苗木の目印。新芽の先端にはシカがかじった跡がある。



餌はヌカとヘイキューブ（キューブ状の乾草）。シカが好きな木を檻の近くに置いてみるなど、工夫には余念がない。

今後の課題は、業務と捕獲の両立。  
理想の形が見えてきた。

最初の捕獲後、翌日にもう1頭檻に入り、さらにその翌日には5~6頭が現れた。3ヶ月で33頭を捕獲した。現在、箱わな3箇所、囲い罠を2箇所設置しており、ある程度獲り尽くしたら次の設置場所を探すという流れになっている。

今後は「伐採しているうちに捕獲を行い、数を減らしてから植林を行う」方法が理想の形ではないかと考え、実行していきたいと話してくれた。

※「クラウドまるみえホカクン」の機能のひとつで、専用のアプリで檻の様子を見ながらチャットや捕獲ができる。